1班　中世史

1　中世の農村の様子

～鎌倉時代～

★農具
- 牛や馬など家畜、“くわ”や“すき”を使う
- 農具が鋭いものになった

★二毛作
刈った草木を地中で腐らせた「刈敷」や草木を焼いた後の灰「草木灰」、牛や馬の糞を肥料として使う

生産力UP!!!

同じ土地で2回、違う作物を作る(米、麦など)

★商品作物
米以外に栽培する余裕ができる
- 楮(こうぞ)…和紙の原料
- 藍(あい)…藍染めの原料
- 漆(うるし)…天然樹脂染料
- 荏胡麻(えごま)…油が取れる

★家の造り
- 茅葺屋根…藁の屋根と土壁で作られている
- 入口に馬小屋がある
  →農民は戦いになると武士として戦うため

★食事
- 食事は1日に2回
- 玄米を主食にうちあわび、くらげ、梅干、塩、酢などの献立
- 狩りで仕留めた鳥や猪、鹿などの肉も食べた

～室町時代～

★食事
- 1日3回、一汁三菜が基本の食事であった

★農業
- 二毛作の普及や三毛作
- 肥料に下肥が広く使われるようになった
- 西日本では馬、東日本では牛を使って畑を耕すようになった

★米の品質改良
稲の品質改良によってそれぞれ収穫時期の違う早生(わせ)、中稲(なかて)、晩稲(おくて)が作られた

～安土・桃山時代～

- 豊臣秀吉の*太閤検地で石高制度が成立する
  *日本全土で行った検知(田畑(山林は除く)の測量及び収穫量調査)
  天正の石直し、文禄の検知ともいう
- 村に*耕作権を保証した代わりに、年貢の負担を村の連帯責任とした
  *農地の所有者に小作料を支払い、その農地を耕作(又は採草放牧地で養畜)する権利

～江戸時代初期～

★新田開発ブーム
工事は大規模化し、平野が広がる
(徳川幕府も大規模な開発をした)
↓↓↓
関東平野の大地をひらいた武蔵野新田
下総の沼を干拓した飯沼新田　　など

★村方三役…名主、組頭、百姓代
村の有能力者を村役人に銘じて行政を担わせた

2　惣牟田地区の歴史

★竹森清左衛門貞幸
土木技術にたけ、江戸城や大阪城の建設に関わっていた。
「黒田二十四騎」のうちの竹森次貞の嫡男で、信長の孫娘を妻とした。
惣牟田地区には竹森氏関連の石碑があったり、石峯神社の創建者は竹森氏とのつながりがあったりする。

★黒田二十四騎
- 賤ケ岳(しずがだけ)の七本槍の異名をとって、戦国大名　黒田長政が家臣の中から２４人の精鋭を選んだ時の呼称。
- 18世紀上旬の享保年間の頃には成立している。
- 長政を含めて黒田二十五騎とする場合もある。なお、江戸時代に江戸城の百人番所において、黒田藩の家臣が詰めていた部署を「二十五騎組」と称していた説もある。

★黒田長政
- 播磨姫路城で生まれた
- 安土桃山時代から江戸時代の武将
- 関ヶ原の戦いで戦功を挙げた
- 福岡藩の初代藩主(黒田孝高の嫡男→息子)
- 長政は藩主となって以降、数々の産業を推励し、博多人形や博多織、高取焼など伝統工芸の復興に力を入れ、現在に至るまで福岡の名産品となっている

★黒田八虎
黒田長政からの精鋭の家臣「黒田二十四騎」の中から選んだ最も優れた武将８人のことをいう

★黒田孝高(黒田官兵衛)
- 長政の父、戦国時代から江戸時代の武将
- 孝高は秀吉の軍師とも評されるが、秀吉の有力側近は豊臣秀長と千利休であり、孝高は軍事的な司令官ではあったが、豊臣政権を動かす発言力は有していなかったとする指摘もある

★竹森九右衛門政直の家族墓
竹森清左衛門貞幸の弟の新右衛門利友の系譜を引く末裔の墓もあり、惣牟田地区の住民が守り継いでいる

★石垣
若松区石峯山中に戦国時代に、大庭氏といわれる人物の別宅があったとされる場所に残る石垣の遺構

★昭和期
若松区石峯山中で旧制若松中学校の射撃訓練場跡とみられる構造物が見つかる

3　フィールドワークで学んだこと

～1日目　午前～

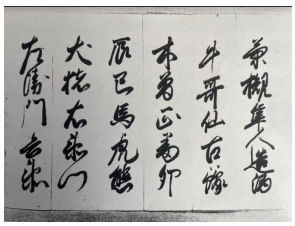
- 竹森清左衛門の石碑を見に行った。この石碑は北九州市立向洋中学校の近くにある。
- 田上教授に石碑の説明をしていただいた。
  石碑には「再建す」と記されており、これより古いものがあったと考えられる。
- 3つの石碑が並んだ竹森氏の子孫の家族の石碑もあった。
- 十三仏という仏像を見た。昔民間信仰によって作られたものである。
- 山に入る前、塩で身を清めた。

～1日目　午後～

- 石峯山の中に入って、戦国時代の石垣や昭和期の射撃訓練場跡地を見に行った。
- 石垣は戦国時代にあった大庭氏の別宅の遺構である。
- 山道を歩くのは大変だった。
- 良い眺望の所や、遺跡を見た時の感動はとても良いものだった。

～2日目　午前～

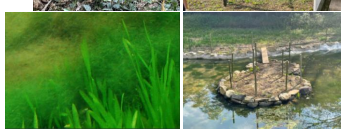
- 古文書について田上教授に教えていただいた。
- 古文書を見て現代の漢字と結びつけながら読み解いていった。
- 変体仮名やくずし字など、いろいろな豆知識なども教えていただいた。



◆　くずし字…普通の字を崩している字(江戸時代初期頃)
◆　上代様…身分の高い女性が使う字
◆　唐様…漢文の時に使う字

～2日目　午後～

- 池の柵づくりのために竹の運搬やアオミドロを池から取り除いた。
  (竹は熱を加えることで、柔らかくなり形を変えることができる。)
- 山芋掘りを見学した。



<アオミドロ>
◆ ホシミドロ科、接合藻類。ごく普通に見られる淡水藻。
◆ 緑色の糸くずを水面いっぱいにまき散らした様相を呈する。
◆ 水を張った池の場合では、太陽光の土中への入射を邪魔して、池の中の生物の生育を阻害することがある。

～3日目　午前・午後～

- 里芋・赤芋掘りや畑仕事、昔の農具を体験した。
- くわで両サイドの土を掘って、ある程度掘れたら後は手で簡単に掘れた。
- 赤芋は他の里芋よりも、葉っぱのところが大きくてとるのが大変だった。

◆ 稲刈りをしたあと干した稲の穂先からもみを取り出す機械。
◆ くし状に並べられた鉄の歯を通し、もみをひっかけて足元にある板を踏んで分離させる。

千歯こき

唐箕
◆ 脱穀したものに混じっている異物を除去する。
◆ 機械にある取っ手を回して風を送ることで、軽い不完全な粒や異物を分け、精米できる。

4　未来の惣牟田地区について考察

- □ 道を歩きやすく、広くして、車が通りやすくする
- □ 街灯をつける
- □ 公共トイレの設置
- □ 通信環境をよくする
- □ アスレチックを作る
- □ 農作業体験(料理もできる)
- □ 道キャンプ場を作る
- □ コンビニを作る
- □ 展望台(望遠鏡設置)
- □ 広告を作る

田舎ぐらしの地点
都市とつかず離れずの絶妙な距離感を保つ

5　今後の課題(次年度に向けて)

□限界集落を迎えている惣牟田をどのようにして人の集まる場所へと変えていくか。

□どんな方法で惣牟田の名前を広げていくか。

□歴史遺跡をどうやって未来に残していくか。

□さらに詳しい惣牟田地区の歴史を学んでいく。